TEIKA NEWS LETTER

Teikyo University of Science

vol. 36

FACULTY OF LIFE & ENVIRONMENTAL SCIENCES

Animal Sciences

STUDY!

TOKYO WEST campus

SENJU campus

ENJOY!

TOPIC

大学としては日本初の動物看護師育成学科

ここにしかない学び。

Go to See Graduates

卒業生に会いに行く。

両親への手紙

大学としては日本初の動物看護師育成学科

ここにしかない学び。

アニマルサイエンス学科　動物看護福祉コースって？

アニマルサイエンス学科は、動物と人とのよりよい共生の実現のために、社会に貢献する実践力のある人材の育成を目指す学科です。本コースでは、動物看護および動物福祉の知識・技術を取得し、動物の獣医療や生活について探求します。獣医療の側面からの動物看護学だけではなく、人と動物がどうしたら幸せに共生できるか、動物の心身の健康と動物福祉（動物の幸せ）に視点を置き、幅広く学ぶカリキュラムが特長です。

進路　学んだ知識を将来どう活かすか。目指せる資格、就職先はさまざま

目指せる資格は、愛玩動物看護師、中学校・高等学校教諭一種免許（理科）、博物館学芸員といった国家資格から、ペット栄養管理士などの民間資格、本学認定資格のコンパニオンアニマルアドバイザーまで多岐にわたります。主な就職先としては動物病院をはじめ、農林水産省動物検疫所、製薬会社、ペット保険会社、動物関連企業、その他民間企業などが挙げられます。

授業　必要な専門知識を習得しながら、「いのちをまなぶ」

愛玩動物看護師カリキュラムに準拠した内容を中心に展開しています。愛玩動物看護師として臨床の現場で必要な知識を習得する科目だけでなく、生命倫理や動物の福祉、人と動物の関係など動物に関連する科目を学べます。動物リハビリテーション学や動物福祉活動論など、独自の科目も展開しており、より幅広く「いのちをまなぶ」ことができます。

実習　現場で使用する器具を使って行う、臨場感のある実習

1年生では愛玩動物の基本的な扱いや飼育管理の基礎を学ぶために、イヌ・ネコ・エキゾチックアニマルの飼育を体験します。2、3年生では動物看護実習室、動物福祉実習室、動物共生実習室の3つの実習室において臨場感のある実習が行われています。臨床現場で用いる器具や用品などを多彩に取り揃え、顕微鏡を用いた細胞の観察や各種検査、飼養管理などについて詳しく学びます。

Student's Voice

生命環境学部
アニマルサイエンス学科 4年
三谷 もえさん

動物の看護だけでなく、福祉も含めて勉強できる点を魅力に感じ、本コースへの入学を決めました。現在は動物リハビリテーション研究室に所属して、実際に一般家庭で飼われているペットのイヌをお預かりし、3人～4人でグループを作ってリハビリテーションを行っています。イヌの疾患や性格などを鑑みて、何が一番そのイヌの為になるのかを毎回考えるのはもちろん、飼い主さんとも良好な関係を築けるよう意識しています。将来は、これまで学んだことを活かしつつ、自分の能力を向上させ、動物医療に貢献したいと考えています。

Professor's Voice

生命環境学部
アニマルサイエンス学科
三好 哲平特任助教

愛玩動物看護師は2019年に国家資格となった専門職です。その仕事内容は、診療の補助や罹患動物の看護、飼い主に対する愛護・適正飼養指導など多岐にわたります。本学では「いのち」について深く学ぶと同時に、動物と人の最適な関係についても考えていきます。愛玩動物看護師は、動物と人が共生できる環境を実現するために社会から必要とされる人材です。学生たちがプロフェッショナルとして活躍できるよう、将来の夢に向かって歩む学生一人ひとりに寄り添ったきめ細やかなサポートを行っていきます。

■ アニマルケアセンター・附属動物病院

アニマルケアセンター（ACC）には学科動物の飼育室をはじめ、実習室、科学的な研究を行う実験室、動物理学療法室などが備わっており、毎日の学科動物飼育や各種実習、卒業研究など学生の積極的な学修の場になっています。
動物看護の教育・研究を活かして2018年に開院した附属動物病院は、一般的な診療に加えてウェルネスプログラムやリハビリテーションなど、動物看護的視点での診療科目を実践する、国内では数少ない施設です。地域への情報発信や飼い主が集うコミュニティを提供することにより、愛玩動物看護師の社会貢献活動も支援しています。

教員活動報告

―授業・研究における学生たちとの過ごし方―

生命環境学部 Faculty of Life & Environmental Sciences

アニマルサイエンス学科
Department of Animal Sciences

青木 かがり准教授

2023年度に、生命環境学部アニマルサイエンス学科に着任しました青木かがりです。私の専門は鯨類の行動生態学で、マッコウクジラの回遊生態、能登半島七尾湾に出現するミナミハンドウイルカの海域利用、マイルカ科鯨類のエネルギー消費などを研究しています。野生動物実習Ⅰや水生哺乳類学、水生動物学などの授業を担当しており、野生動物実習Ⅰでは、新江ノ島水族館での行動観察を実施しました。学生たちは前もって撮影したハンドウイルカやアカウミガメなどの映像を見て、それぞれの種の特定の行動に着目し仮説を立て、観察方法を考えました。普段何気無く見ている動物でも、じっと観察していると新たに見えてくる一面があります。学生たちそれぞれの発見や気づきがあったようで、実りある実習となりました。

自然環境学科
Department of Natural & Environmental Science

下岡 ゆき子准教授

研究室ごとに、不思議と学生のキャラクターに傾向があるものですが、今年の下岡研究室の4年生は妙に物静かで、ゼミでの発言も消極的でした。5月に卒業生から連絡があり、久々に大月市内の調査地に行くから、ご一緒にいかがですか?と誘われました。4年生達に声をかけ、みんなで大月の山中を散策してみると、4年生の動きの良いこと!普段ほとんど喋らない学生が、倒木の下を探って次々と隙間にいる動物を探し出し、「僕、あんまり昆虫に詳しくなくて」という学生が、「なんか見つけた、これ何?」と手に取る昆虫がヒットの連発。普段とは全く違う姿に驚愕しました。一人ひとりの素敵な一面を、卒業までにしっかり掘り起こし、良い卒業研究につなげていきたいと思います。

生命科学科
Department of Life & Health Sciences

上野 良平准教授

卒業研究は、大学4年間の学びの集大成ですが、「就職活動との両立」という重荷と緊張にさらされます。現在はコロナ禍の影響が残り、研究指導がさらに難しくなりました。それでも、順調に研究が進む環境を教員が提供できれば、学生は精神的に前向きになって全てが好転していきます。私の研究室では、就職活動やコロナ禍の負担があっても順調に研究が進むよう、3年生の終盤にあたる1月から予備実験を開始し、就職活動期間中も含めた1年間、一貫して週1～2日のペースで全員が集まって実験を進めます。これにより、就職活動に十分な時間を取りながら研究を着実に進めることができ、学生の精神的負担を減らします。私も、常に学生と一緒に実験して教育効果を高めています。

医療科学部 Faculty of Medical Sciences

理学療法学科
Department of Physical Therapy

渡辺 長講師

理学療法学科の「卒業研究」では、各教員の研究や専門性に応じたさまざまなゼミ活動が実施されています。地域福祉や介護予防に関心が高い学生に対しては、実際に高齢化が深刻化する中山間地や被災地、離島などの現状を視察し、卒業研究に要するデータを収集すると共に、今後の地域福祉の在り方を模索する機会を提供しています。2023年3月には全国で2番目に高齢化率が高く(2021年時で35.9%)多くの限界集落を抱える高知県を訪問し、中山間地や離島でどのように医療資源が維持されているのかを視察しました。また、地域でビラを配布して高齢者を集い、学生主体で地域住民に対する体操指導や認知症予防のクイズなど行って交流を図りました。参加者からは「普段若い人と接する機会がないので楽しかった」など前向きなご意見を多数いただきました。今後も学生の「体験」を重視した学びを提供して参ります。

作業療法学科
Department of Occupational Therapy

大関 健一郎教授

作業療法学科では、1年次に作業療法技法学実習で、臨床にて利用する代表的なアクティビティ(作業活動)を学習します。しかし、限られた時間内では多くの種目を行うことは物理的に難しいのも事実です。そのため、夏休みなどの長期休暇を利用して、希望者に対して授業ではできないアクティビティの体験学習を用意しています。今年の夏休みには「陶芸」を行いました。陶芸とは、粘土で湯飲みやお皿などを成形して、焼き窯で焼成する活動です。本学科には、本格的な道具や用具、焼き窯が常備されており、実戦さながらの学習をすることができます。このように授業時間以外でも体験学習ができるように、常に多くのアクティビティ教材を用意し、皆さんの学習意欲に応えていけるように努力しています。

柔道整復学科
Department of Judo Therapy

吉田 真琴助教

柔道整復学科では、1年次から4年次まで臨床実習施設(附属接骨院)にて臨床実習を行っています。臨床実習は、学生が実際の現場を経験する大切な機会です。そのため、学生とのかかわり方は一教員としての責任を感じると同時に、学生の変化や成長を感じる喜びをもたらしてくれます。実習初日は、学生たちが現場で不安や緊張を抱えていることが多く、戸惑うことも多いですが、実習を繰り返すことで学生の積極性などが増し、自ら考え行動する姿勢を見ることができます。私自身、教員として学生を指導する際は「学びの共鳴」を意識しています。学生とのかかわり方は一方的な指導ではなく、学生と共に学び合い、お互いに成長し合う関係性を築くことが大切であり、時に現場の中で直面する問題や困難に寄り添い、解決策を見つけることで、学生たちの成長がより一層促進されると信じています。臨床実習施設担当教員としての責任を胸に、学生が実習での経験を次に活かしていけるよう、切磋琢磨しながら学ぶことができる環境を提供したいと考えます。

医療科学部 Faculty of Medical Sciences

東京理学療法学科
Department of Tokyo Physical Therapy

安田 耕平講師

東京理学療法学科では、令和5年度から「臨床実習支援システム」を段階的に導入し、学外で実施される臨床実習の提出物を一括で管理しています。「臨床実習支援システム」とは、インターネット環境を利用し、学生や教員がいつでもどこからでも、実習提出物を入力・閲覧できるシステムです。従来は、学外の臨床実習に赴くと、実習指導者と学生との二者間でのやりとりが多い状況でした。実習の進め方も時代とともに変化しています。教員も学外実習について、提出物等から随時状況を把握することで、実習指導者・学生・教員の三者間で情報共有が行いやすく、より安心した学外実習の環境が用意できると考えています。

東京柔道整復学科
Department of Tokyo Judo Therapy

藤原 基助教

医学史、応用整復学といった座学授業をメインに担当し、頻繁に学生へリアクションを求めています。ディベート時間を設けて、教員との意見交換の機会を多く作ったり、レクリエーション的な問題を解かせて授業への没入度を高めたりする試みを行っています。授業に直接関係しない事柄でも、まず興味を引くことで重要な項目へ誘導できるため、常に学生目線で、共感できる感性を持って日々過ごす事が重要です。アドバンスセミナーでは、研究論文を検索して読んでもらうことで、その知識を学ぶだけでなく、教員レベルの考え方や物事の捉え方を垣間見られるような取り組みを継続しています。

看護学科
Department of Nursing

田中 博子教授

わが国は超高齢社会を迎え、本人の意向を尊重した医療や看護の提供、最期の迎え方を考えることがますます重要視されています。本人の意向を最優先することは基本ですが、家族に負担をかける申し訳なさから、本音が言えないまま意思決定している人も多いのが現状です。自分の人生、そして人生の終焉を自ら意思決定することは、一人ひとりの大きな課題です。だからこそ、本人、家族が直面する重要な局面での意思決定においては、適切なサポートが必要になり、合意形成支援のための仕組みづくりは急務です。そのような背景をふまえ、私は、本人と家族が、対話を通して合意形成するための、訪問看護師による支援に関する研究に取り組んでいます。研究成果は授業や実習指導に反映させ、学生の将来につなげていけるよう取り組んでいます。

医療福祉学科
Department of Medical Welfare

三木 良子准教授

「千住地域でのフィールドワークー住民理解と便利隊活動」について紹介します。本学科では、「福祉科学セミナーI」において、学生が千住地域の高齢者宅等に伺うフィールドワークを行っています。目的は、“ちょっとしたお手伝いや交流”を通して、地域で暮らす住民の状況や生活ニーズを理解し、福祉のエキスパートとなっていくための学びを深めることです。千住地域は都内でも高齢化率が高く、日本の身近な将来を映し出している地域でもあります。また、フィールドワークと連動した「生活環境論」では、コミュニケーション技術や地域の生活課題などを並行して学びます。この授業では、セミナーIで伺うお宅や施設等で活用できる便利グッズを作成し、実際に使用してもらいました。

教育人間科学部 Faculty of Education & Human Sciences

こども学科
Department of Child Science & Education

大海 由佳教授

本ゼミ（旧梶井ゼミ）では「保幼小連携」、「特別支援教育」、「学校教育の課題」などをテーマとしています。各学生は、文献調査を行い、作成した資料をPowerPoint等でまとめ、15分程度の発表を行います。発表時は質疑応答の時間を確保し、学び合うことのできる環境を用意しています。毎週水曜日のゼミ活動では、発表者の研究課題について検討します。その際には、「その事象の背景はどこにあるのか」、「なぜ、そうなるのか」を探求するための文献や補足資料、論文等を紹介しています。本ゼミでの学生の学びが「将来の教師としての力量」となるよう、受け身になることなく、意欲ある学びになるよう指導しているところです。

幼児保育学科
Department of Early Childhood Education & Nursing

今西 ひとみ教授

幼児保育学科では、専門科目「幼児と表現Ⅱ（対象：2年前期）」で学ぶ“身体表現”の課題で行った子ども向けダンス「オーレチャンプ」を、オープンキャンパスの学科説明で披露しています。2年次だけでなく、3年次や新しく加わった1年次の有志もお昼休みに集合して、ダンスの振り付けはもちろん、当日来場くださる高校生や保護者の方に披露する際の立ち位置などにも配慮しながら練習し、本番に臨んでいます。初めて人前に立つ学生がほとんどで、オープニングの「ポンポンダンス」での行進はとても緊張した面持ちですが、音楽とともに笑顔が見られ、最終的には来てくださった高校生や保護者等の皆さんに、本学の学びと楽しい様子をご披露できています。来学された際は幼児保育学科にぜひお立ち寄りください。

学校教育学科
Department of School Education

櫻井 丈講師

今年度担当している「Integrated English Communication Ⅲ・Ⅳ」では、宗教、文化、人種、民族といった異文化理解に不可欠な概念について、英語「で」理解し議論することによって、クリティカル・シンキングスキルを身につける訓練を行っています。いわゆる講義形式ではなく、学生たちが当該の問題について自分で考え、問題を共有する相手と議論を交わす授業スタイルが特長です。最初から学術的な話で始めるのではなく、なるべく普段友人とスモールトークをする感覚で英語を話すことから始めています。また、学生にさまざまな質問を投げかけ、話の「ネタ」にしてもらうことで、授業で扱う当該の内容の理解に際して新たな発見をすることもあります。そういったトライアル・アンド・エラーを繰り返していきながら、英語でのコミュニケーションに必要なスキルを身につけていきます。

「まなび」を支える 3つのセンター

総合教育センター

さまざまな分野で活かせる、汎用性の高い教育を目指して

小堀 馨子准教授

総合教育センターでは、全学における共通科目および教養科目を担当しており、理系・文系を問わずさまざまな分野における専門の先生方が所属しています。私は2015年4月に着任して以来、「英語」(「教養英語」を含む)と「宗教学」を両キャンパスで教えています。日本人は宗教とは無縁だと思っている人が多いのですが、これからの国際交流・多文化共生の時代において、その態度は時に問題を引き起こすことがあります。本学の学生には、相手の文化伝統や信条を尊重しつつ、自分自身の信条も大切にする態度を学んでいただけたらと願っています。専門は古代ローマの宗教の研究ですが、英語の授業では、世界の神話や西洋の古典も扱っています。神話や宗教に関心のある方は気軽に声をかけてください。

教職センター

地域とのつながりを感じながら、教師としての力を育む

福田 八重講師

「教え子の　育つ姿や　花しょうぶ」

子どもを育む上で大切なことに地域とのつながりがあります。教職センターでは、教師としての力量を形成するため、学校でのボランティアと共に、地域のお祭りでの活動も大切にしています。今年は足立区の「しょうぶまつり」に参加し、先生方も応援に来てくださいました。

学生たちにとっては、地域の子どもや大人だけでなく、足立区観光交流協会といった行政職など、地元の方々の地域に対する思いを知れるよい機会になりました。

私も、大学のボランティア担当教員として祭りに赴きました。冒頭の俳句は「しょうぶまつり」の学生の姿を詠んだものです。「令和五年度『しょうぶまつり』俳句一般の部」で特選を頂き、学生のおかげで、俳句の世界という新しい世界が開けました。

医学教育センター

国家試験対策だけでなく、現場での活躍を見据えた教育を

センター長
髙田 雄三教授

医学教育センターの教員は、基礎医学や臨床医学に対して、最新の研究や自身の研究成果、医療現場での診断、治療から得られた知識や経験を基に、各学科の教員と連携して講義および国家試験対策に取り組んでいます。

また、アクティブラーニングやグループ学習といった多彩な教育を通して、自主性があり周囲の人達と協調した連携がとれる優れた医療人になるための土台をつくり、あらゆる可能性を想定した柔軟な発想で問題解決できる応用力や臨床実践力を修得できるように努めています。そして、国家試験に合格するにとどまらず、社会で活躍でき医学と医療の発展に寄与できる実力のある人材を社会に送り出したいと考えています。

キャリア支援センター

親身な面談や充実した情報提供など、多角的なサポートによって学生の夢を手厚く応援。在学中はもちろん卒業後まで、一人ひとりに寄り添うキャリア支援を行っています。

1／就職実績（2022年度卒業実績）

生命環境学部は例年「接客・販売系」の仕事に多くの学生が就職します。特に「動物」、「環境」、「食品」がキーワードの業界に志望が集まります。

2022年度においては、少子化の影響からか企業の旺盛な採用状況により、就職希望の学生のほとんどが就職先を決定しています。

医療科学部は、国家試験合格者のほぼ全員、病院等医療施設への就職が決定しています。

教育人間科学部は、全体の約8割の学生が教員（幼稚園含む）、保育士等の進路を選択しています。

各学部の産業別進路

2／就職率

2023年3月卒業生の就職率は96.3%。前年（94.2%）比プラス2.1%増で、ここ数年の中でも最も高い数値です。早期から卒業後の進路に向き合う学生は、自己理解・企業研究の進みも早く就職活動が上手く進む学生が多いです。求人依頼も多くの企業様よりいただいており、就職率を見ても、求人依頼から見ても、就職環境は良好です。

3／近年の就職活動の特色

現3年生から、インターンシップに参加した学生の活動評価を採用選考で利用可能となりました。それに伴い、現3年生は、今年の夏期休講期間から「5日以上のインターンシップ」と「1day仕事体験」に参加しています。オンライン型、現場参加型、有償型などそのスタイルも多様です。

4／本学の取り組み

キャリア支援センターは、学生の「進路」を一緒に考える場所です。一人ひとりの「気持ち」や「想い」に寄り添い対応するように努めています。面談にはオンラインと対面の両方を利用して学生の利便性に配慮したり、就職対策講座等のガイダンス、学内業界セミナー等を実施したりと、学生と社会をつなぐ窓口として支援に取り組んでいます。

5／本学学生の特長

企業・施設様等からいただくコメントとして、「真面目」、「素直」、「努力を惜しまない」等の評価をいただいています。多くの学生は卒業研究や各種国家試験対策など、卒業間際まで勉強や研究に熱心に取り組んでいます。

大学院 | 科学技術・医療の教育研究を通じて、広く社会人と人類の発展に貢献することをめざす

詳しくはこちらから

Student

医療科学研究科 柔道整復学健康ケア専攻 1年　青木 大さん

柔道を現役で続ける中で直面した“減量”という課題を解決するために、大学院に進学しました。減量は、柔道競技だけでなく、レスリング競技など体重階級制スポーツ全体の課題とも言えます。試合前1～2週間の短い期間で急速減量を行った後、適切なリカバリーができずに、ベストパフォーマンスを発揮できない選手を多く目にしてきました。具体的な研究内容は、試合前に行う減量を目的とした極端な水分制限がパフォーマンスに及ぼす影響や、その制限後の適切なリカバリー方法などです。今後は自身の研究を活かし、現在監督を務める帝京科学大学柔道部の学生たちをサポートしていきたいです。

Professor

医療科学研究科 柔道整復学健康ケア専攻　田村 昌大准教授

青木さんは、強豪大学の監督を歴任しながら自らも日本代表候補選手として活躍された、全国でも稀有な存在です。そのような彼が専門である柔道競技を研究テーマとして、自分自身の経験による減量や競技分析を検討しており、指導教員としてもどのように進めていくか興味深く見守っています。

大学院生（修士課程）として行動する上で重要なことは、受身となって「学び」を与えられることではなく、「学び」を与える側の人材になることであり、そのためには能動的な行動が求められます。試行錯誤しながらも、自分自身で考えて学ぶ姿勢を忘れずに、意欲的に充実した生活を送って欲しいと思います。

医療科学研究科

修士課程 2年	■ 総合リハビリテーション学専攻 ■ 柔道整復学健康ケア専攻 ■ 看護学専攻
博士課程 3年	■ 総合リハビリテーション学専攻 ※2024年4月「医療科学専攻」に名称変更予定

理工学研究科

修士課程 2年	■ アニマルサイエンス専攻 ■ 環境マテリアル専攻 ■ バイオサイエンス専攻
博士課程 3年	■ 先端科学技術専攻 ・アニマルサイエンス領域 ・環境マテリアル領域 ・バイオサイエンス領域

取得可能な教員免許状
※先端科学技術専攻・医療科学研究科は除く

- 中学校教諭 専修免許状（理科）
- 高等学校教諭 専修免許状（理科）

Go to See Graduates.

卒業生に会いに行く。

西東京科学大学
理工学部 電子・情報科学科
（現・帝京科学大学 生命環境学部）
1997年 3月卒業
甲府西高等学校（山梨県）出身
鷹野 智裕さん

Jリーグ・ヴァンフォーレ甲府で広報部長を務める。
新聞広告や法人広告、パンフレットなどの発行物制作から、SNSでの情報発信まで幅広く広報活動を行う。在学中は木村研究室に所属し、主にプログラミングや情報通信について研究。

好きなことをテーマに。今の仕事に繋がる“人と人との縁”を築いた卒業研究

将来的に役に立つであろうパソコンやインターネットの知識を身に付けたいと思い、1993年4月に西東京科学大学 理工学部（現・帝京科学大学 生命環境学部）電子・情報科学科に入学しました。

卒業まであと1年となった4年生の時、配属していた木村研究室で「インターネット社会を探求する」というテーマで卒業研究を行うことになりました。私はサッカーが好きだったので、地元チームのヴァンフォーレ甲府のホームページを探したのですが、オフィシャルホームページが見当たりませんでした。それならファンページからでもいいので自分で作ろう！ ということで、卒業研究と趣味を兼ねて約60万円のパソコンを購入し、木村先生の指導も受けながらhtmlのタグ打ちを勉強するところから始めました。

ホームページ作成にあたっては、ヴァンフォーレ甲府の関係者の方に「情報をください！」とアタックしたり、試合を観に行って観戦記を書いたりと体当たりでした。結果的には、卒業研究を通してインターネット社会というよりは、ヴァンフォーレ甲府を探求したことになりましたね（笑）。ヴァンフォーレ甲府のサポーターだけでなく、ほかのチームのサポーターとの繋がりも生まれ多くの人脈もできて楽しかったですし、自分自身成長することができました。帝京科学大学を卒業後も、一般企業に勤めながらヴァンフォーレ甲府のホームページを更新し続けていたのですが、ある日、ヴァンフォーレ甲府のスタッフの方から連絡があり「退職者が出たから、うちに入社しないか」とお誘いいただき、二つ返事で「はい、やります！」と答えて、ヴァンフォーレ甲府の広報として働き始めました。

学生時代にしかできない経験が、いつか大きな糧になる

ヴァンフォーレ甲府の魅力は、市民クラブならではの温かさ。地元サポーターの皆さんにとって、選手は近所のお兄ちゃんのような存在で、アットホームな雰囲気です。都会のクラブや規模の大きいクラブに対しても、「ヴァンフォーレ甲府だってこんなにできるんだ」というプライドを持っています。

だからこそ、サポーターや選手の笑顔を見た時、とても大きなやりがいを感じます。サポーターが試合を観戦して「やったぞ！」と盛り上がっている瞬間を見ると、純粋に嬉しいですね。昨年の天皇杯優勝の時のサポーターと選手の笑顔や涙は一生忘れることができないでしょう。

試合の勝敗や、勝ち点、入場者数など、がんばった結果がすべて数字で目に見えるので、そういう意味でも面白くてやりがいのある仕事だと思っています。

学生の皆さんに伝えたいのは、とにかく「仲間を作ってください」ということ。いろいろなコミュニティに顔を出して、人脈を広げたり、今しかできない経験をしたりしておけば、すぐには役に立たなそうに見えることでも、将来必ず活きる時が来ます。「大学の友は一生の友」という言葉があるように、私も大学時代、友人とサッカーのサークルを立ち上げたのですが、その時の仲間とは今でも付き合いがあります。勉強、遊びに関わらず、面倒でも、回り道でも、そこにあえて飛び込んでみてください。自分の興味関心の赴くままに、アクションを起こし続けていれば、その選択や挑戦のすべてが、人生の大切な糧になっていくはずです。

両親への手紙

Letters to Parents

お父さん、お母さんへ

時が経つのは早いもので、私は来春、大学を卒業します。この節目の時に、改めて2人に感謝の気持ちを伝えたく、手紙を書きます。

幼い頃はなかなか言うことを聞かず、きっとたくさん心配をかけたことでしょう。しかし、いつも私を信じ、見守ってくれたこと、心から感謝しています。私が壁に直面したり、進むべき道を見失いそうになったりした時、厳しくも愛情をもって、正しい道に導いてくれたお父さん。どんな時でも味方でいてくれて、そっとやさしい言葉をかけてくれたお母さん。2人がいてくれたからこそ、私は常に前を向き、歩を進めることができました。

大学生になり、一人暮らしを始めてから、ふとした時に両親の偉大さに気が付くことがありました。料理ひとつにしても、実家では当たり前のように食事が出てきたことへのありがたさを痛感し、何気ない日常の中で感じる愛情に、思わず涙がこみ上げることもあります。私は2人の息子であることを誇りに思います。これからも、その誇りを胸に、2人に恥じない人間になれるよう、頑張っていきます。大人として、社会人として、2人の息子として。

生命環境学部 生命科学科 生命・健康コース 4年
都立大島海洋国際高等学校（東京都）出身
岡田 隆大朗さん

RYUTARO OKADA

International Center

国際交流センター

国際交流センターでは、海外の大学または研究機関との学術文化交流を推進し、学生派遣、留学生及び教員・研究者の受け入れ、海外研修事前研修、学生交流などさまざまなプログラムを展開しています。

シンガポール研修

（ナンヤン理工学院／9日間／看護学科・医療福祉学科対象）

多民族国家・シンガポールの医療福祉施設の見学を通して、その先進的な取り組みやシステムを学ぶとともに、多様な国籍や文化的背景を持つ人々への理解と共感について考えるプログラムです。

オーストラリア語学研修

（サザンクロス大学附属語学学校／15日間／学校教育学科対象）

レベル別英語学修のほか、ホームステイ体験を通してオーストラリアの生活・文化を実体験し、異文化理解の促進、英会話力・コミュニケーション能力の向上を図るプログラムです。

University Festival

帝京科学大学学園祭

※開催についての最新の情報は本学HPをご確認ください。

科大祭（東京西キャンパス）TOKYO WEST CAMPUS

第33回 科大祭実行委員長　土井 春佳

今年の科大祭は、10月21日（土）22日（日）の2日間と規模を拡大して開催することになりました。新型コロナウイルスの影響により、科大祭を経験しているメンバーがほとんどいない状態での開催ですが、科大祭に来場していただいた皆さんに「来てよかった!」と満足していただけるよう、開催の準備をしております。ステージ企画では、2日間で5組のゲストをお呼びしております。実行委員が考案した企画もありますので、科大祭実行委員会一同、皆さんのご来場を心よりお待ちしております。

桜科祭（千住キャンパス）SENJU CAMPUS

第13回 桜科祭実行委員長　古田 明梨

こんにちは! 桜科祭実行委員会です。昨年度は制限を設けての開催でしたが、本年度の桜科祭は制限を無くした対面開催の方向で進めております。無事開催できるのは、桜科祭実行委員を初めとする多くの方々のご協力あってのことです。この場をお借りして感謝申し上げます。コロナ禍生活が落ち着いてきたとはいえ、まだまだ大変なことも多くある学生生活ではありますが、桜科祭が皆さまにとって思い出になるようさまざまな企画を行う予定です。皆さまのご来場を、一同心よりお待ちしておりますので、ぜひ遊びにいらしてください!

編集後記

コロナ禍の2020年4月に入学された学生も、早いもので4年生となりました。入学早々、非対面授業で先行きが見通せない大学生活が始まり、さぞ不安な気持ちだったかと思います。最終学年を迎えた今、指導教員とともに充実した卒業研究や資格取得の学修を進め、有終完美な大学生活となりますよう願っております。本学は、本号特集で紹介する大学としては日本初の動物看護師育成学科など、常に「ここにしかない学び。」として個性ある教育研究の充実を目指しています。皆様の引き続きのご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

［ニューズレター部会長　渡邉 浩一郎］

いのちをまなぶキャンパス
帝京科学大学
TEIKYO

［発行人］
帝京科学大学 学長　冲永 荘八
〒120-0045
東京都足立区千住桜木2-2-1
TEL：03-6910-1010（代表）

公式HP